

2021.1.21 開催 帯広市長定例記者会見 報道機関質疑（要旨）

（報道機関）

昨年12月末で、帯広市と釧路市の人口の道内順位が逆転した。改めて、市長はどう受け止めているか伺いたい。また、今後、人口減少が進む中で、道東地域で連携しどのようなまちづくりを進めていくのか伺いたい。

（米沢市長）

逆転の要因については、明確にわからない。十勝・帯広では、これまで、一体感、連帯感を持って様々なことにチャレンジしてきた。つながりを活かした取り組みの着実な積み重ねによって、今の状況があるのではないかと思う。

人口が減らないようにすることは難しいが、夢や希望を感じられる仕事がなければ、人はいなくなってしまうし、集まらない。魅力的な仕事があることが大前提だと思う。この10年間、フードバレーとかちやイノベーション・プログラムの取り組みの中で常に意識してきたのは、十勝の資源を活かして、良質な仕事をつくっていきたいということ。その仕事が夢を呼び、みんながこの地域で新しい価値をつくっていける。「雇用」というより、「仕事」をつくろうというのを合言葉に、地域の皆さんと取り組んできた。その結果が、ここに住むことに誇りを持ち、それを見ている周囲の人たちが「あのまちで働きたい、暮らしたい」と考えることにつながる。

まだ、明確に「これだけの仕事を生み出せた」とまでつながっていない部分もあるが、この地域で、新しい仕事づくりに懸ける人が多く出てきた、かつて誰もやっていない事業を始めた人がいる、といったことを、報道機関の協力も得ながら発信し続けてきた。先のわからない時代に、前向きな動きがある地域からあえて出ていかないだろうし、そこに行ってみたいという気持ちが生まれてくるかもしれない。十勝がこうした素地、文化がある地域であることを、これからも発信していきたい。

「都会にはすべてがある」と思って生きてきた人たちからすると、コロナの状況下で、都会にはリスクも多々あることが実感できたのではないか。また、リモートで会議や仕事をできる状況になると、距離的なハンディキャップへの感覚も変わってくるだろう。その中で、自然資源が豊富にあるという価値、こうした空間での生活のしかたなどに、皆さん魅力を感じるようになるのではないかと感じている。ひがし北海道がもつ自然資源、また、空港や高速道路など時間的なハンディキャップを埋めるインフラ整備の進展は、皆さんこの地域に優位性を感じる要素になると思う。

こうした時代であるから、競争よりも協働が大切であり、「つながる」ことの価値が見直されてくると思う。十勝でこれまで取り組んできたように、今後、ひがし北海道の各都市が、それぞれの魅力を磨きながら、協働して地域全体の価値向上につなげていきたいと思っている。

すでに、平成28年度から5年間にわたって、帯広市、釧路市、網走市の3市で連携して観光プロモーションに取り組んできている。アドベンチャーツーリズム、アウトドア観光の促進に関しても、協働で様々な取り組みを進めてきており、連携の素地はできていると感じている。

（出典：帯広市ホームページ）